
○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 1 時 0 0 分）

◇ 佐 藤 作 行 君

○議長（稲葉昭宏君） 一般質問を続けます。

通告順位 3 番、佐藤作行君。

（3 番 佐藤作行君 登壇）

○3 番（佐藤作行君） 通告に従いまして、壇上より一般質問をさせていただきます。

齋藤町長は、この 4 年間町長を担当していただきまして、もうすぐ 4 年 1 期、4 年の終了に近づきつつありますが、私は町長就任時、公約を町民に対して行ったわけですが、4 年間の公約達成の総括、それから、そこらの（なぜできたか、なぜできなかったか）原因と反省点、そこらを中心にお聞きしたいと思います。

1 番は、「花とロマンのふる里」はできたのか。できなかったのか。

2 番目、観光の質的転換はどうだったのか。また、観光の 6 次産業化はどうだったのか

3 番目に、主な政策について。

町民との連携、信頼に基づく施策の構築。地域資源の再評価、活用。大地に立脚したエコスポーツ等松崎型観光（一社一山運動、大人の修学旅行）。

また、高齢者活動支援・少子化対策。それから、財政行動改善及び施策の協議、決定方向を見直します。以上の公約について。

あと、齋藤町長の所信表明の中のことも一部お聞きしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○町長（齋藤文彦君） 佐藤作行議員の一般質問にお答えします。

町長就任時の公約の達成度合いについて。

4 年間の公約達成の総括と（なぜできたか、なぜできなかったか）の原因と反省点。

①『「花とロマンのふる里」はできたのか、できなかったのか』についてでございます。

昭和 53 年から町が推進しております「花とロマンのふる里づくり」は、豊かな自然や文化、歴史など地域の特性を活かした、個性的で潤いのあるまちづくり、住んでいる人が誇りに思えるまちづくりを展開していくものです。

これまで、快適で美しい環境づくりとしての「花いっぱい運動」、コミュニティづくりと地域

の活性化を図る7大イベント、歴史と文化を活かしたまちづくりとしての伊豆の長八美術館、重文岩科学校、なまこ壁などの地域資源の活用を住民の皆さまとともに進めてまいりました。

この「花とロマンのふる里づくり」は、変わることもない基本的な考え方で、松崎町のまちづくりの根幹をなすものでございます。従いまして、「できたか」「できなかったか」というご質問にはご回答ができないわけでございますが、私は、町長就任以来、ずっとこの考え方に基づいてまちづくりを展開しておるところでございます。

なお、今回、町が加盟する「日本で最も美しい村」連合の設立の目的も「自然環境や景観、歴史、文化などの素晴らしい地域資源を持つ町が、自らの町に誇りを持ち、将来にわたり美しいまちづくりを継続することで、活性化と自立を図る。」というものです。連合への加盟を契機にいたしまして、気持ちを新たに住民の皆さまとともにまちづくりに邁進してまいります。

②「観光の質的転換、観光の6次産業化」についてであります。

私は、町長就任時の所信表明で「箱物等による物見遊山的な観光を排し、自然、伝統、文化、松崎の持つ歴史的遺産などを再評価し活用していく。観光において地域資源の発掘や人材育成等に力を入れ、1次産業、2次産業、3次産業を活性化させ6次産業をつむぎだすことで、人口の流失に歯止めをかけ、更に流動人口を増加させることも可能と考える。」と述べさせていただきました。

こうしたことから、私が新たな観光施設の建設ではなく、「全町まるごとふるさと自然体験学校」を掲げ、農山漁村でさまざまな体験を通して、都市住民との交流を図る体験型の観光を展開しておくことは議員もご承知のとおりであると思います。

体験型の観光につきましては、一部、高柳議員への御回答と重複いたしますが、これまで、石部の棚田のオーナー制度や岩地における修学旅行、海、山のスポーツを通じた事業、あるいは漆喰饅頭絵や繭人形制作体験など個別の体験メニューで受け入れを図ってまいりました。

しかし、まだまだ、体験メニューや指導者が十分ではございませんので、今後もメニューの発掘や開発や指導者育成に努めて、体験メニューとして売り出すことで交流人口の拡大を図ってまいりたいと考えております。

6次産業化につきましては、石部の棚田で収穫された古代米や特産の塩漬けの桜葉、川のりなどを使った商品が開発され、松崎ブランド認定商品として販売されています。また、松崎町商工会による「よもぎ」の調査、研究や有志による桑の実証栽培も行われておりますが、まだ商品化するまでには至っておりません。

③「主な政策について。町民との連携、信頼に基づく施策の構築は」についてであります。

私は、「花とロマンのふる里づくり」を進めるにあたり、住民の皆さまに「他人事ではなく、自分事として考え、一緒に汗を流してください。」と述べ、その考え方は第5次総合計画にも反映させていただいているところでございます。

まちづくりを協働で進めるためには、まちづくりの考え方を住民の皆さまと共有しなければなりません。そのためにこれまで広報の「町長室からこんにちは」や各種会合などで、ご説明をしてきたところでございます。

また、お互いの信頼関係が構築されていなければ、さまざまな施策の実行はできません。役場は「住民の皆さまに役に立つ人がいる場所」であることを常に認識するとともに、地域に飛び出し、地域の皆さまとともに活動することを職員に指示してまいりました。

今後も、この考え方に基づくまちづくりを進めてまいりますので、ご支援、ご協力をよろしくお願いしたいと思います。

③「主な政策について。地域資源の再評価、活用。大地に立脚したエコスポーツ等松崎型観光（一社一山運動、大人の修学旅行）は」についてであります。

エコスポーツによる体験型観光につきましては、海を活用したものとして、雲見海岸におけるダイビング、海岸線を活用したシーカヤック体験、また、岩地海岸で行われているシーカヤックマラソン大会、オーシャンスイミング大会がございます。

山を活用したものでは、本年3月10日に第1回大会が実施された伊豆トレイルジャーニー（伊豆松崎・修善寺間山岳競争大会）や民間の方によるトレッキング、マウンテンバイクツアーなども行われています。

また、4月の花咲く松崎町を歩く「伊豆松崎なまこ壁と桜のツーデーマーチ」も今年で14回を数え、自然を活用したウォーキングによる誘客が図られています。

一社一山運動につきましては、企業に資金を提供していただき、間伐などを実施し、山を整備するものですが、具体的に企業が協力するところまで至っておりません。

しかし、9月7日・8日に富士宮市のNPO法人が町内の民有林を利用し、1泊2日の日程で皮むき間伐などの体験を実施するという、民間レベルの取り組みも始まっておりますので、今後このような取り組みと連携して、進めてまいりたいと考えております。

なお、大人の修学旅行については、具体的な形にはなっておりませんので、子どもの体験修学旅行やその他町内で可能なメニューを活用した中で検討してまいりたいと考えております。

③「主な政策について。高齢者活動支援、少子化対策等」についてであります。

ご高齢の方に元気に過ごしていただくために必要なのは「きょういく」と「きょうよう」で、

「きょういく」とは「今日行くところ」、「きょうよう」は「今日の用事」と言われています。

地域サロンや、老人クラブなどがより充実するよう支援することや、シルバー人材センターで就労していただくことは、生きがいを見出すこととなり、地域の活性化にも繋がります。福祉タクシー、寿乗車券利用助成、給食サービスなどは直接、経済的波及効果があるため、今後も事業内容を精査しながら展開していきたいと考えております。

また、少子高齢化対策についてですが、代表的なものとして「こども医療費助成事業」の助成対象の拡大や、「不妊治療医療費助成」の実施などが挙げられます。今後は具体的に検討を進める保育園整備の中で保育の充実などを協議し、安心して働くことができる環境整備により少子化問題に対応したいと考えております。

以上でございます。

○3番（佐藤作行君） これより一問一答にてお願いいたします。

○議長（稲葉昭宏君） 許可いたします。

○3番（佐藤作行君） はじめに、4年間の公約達成ができたか、できなかったかを言うべきではないというようなことですが、もうじき4年間、1期目が終わるわけなんです、この次また出たいようなお話も伺っていますけれども、やっぱりある一定の自分なりの評価がないと、この次に進めないように思うのですが、そこらは町長、どうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 評価というものは自分がするものではなくて、他人がするものだと思うわけです。私から何パーセントできましたとかなんとかというのは、なかなか自分の口では難しいわけですが、これは他人が評価することだと思っています。

○3番（佐藤作行君） それは一般的な話で、ここで私が町長にお聞きしたいと思っているのは、町長自信が自分を評価していただいて、何パーセントできたかという厳密なことではなくて、上・中・下のどのくらいかなというような感覚で結構なんです。

○町長（齋藤文彦君） なかなか上・中・下とかなんとか・・・、非常に難しいわけですが、私としては、自分で満足できなかったから、再度立候補したわけでございます。

○3番（佐藤作行君） そうすると、結論的には中の下くらいかなというふうに理解してよろしゅうございますか。

○町長（齋藤文彦君） 私がそれを答えなければいけませんかね。それなりのことはしてきたと私は思っています。

○3番（佐藤作行君） そうすると、中の下でいいということですね。それ以上追及してもしょうがないようですので、次に移っていきます。

2 番の観光の質的転換、観光の 6 次産業化についてでございます。これでいきますと、町長の所信表明なんですが、諸々のいろんなことをやって、目的として、「人口の流出に歯止めをかけ、さらに流動人口を増加させる」ということが書いてありますけれども、ここらについては、できたのか、できなかったのかをお願いいたします。

○町長（齋藤文彦君） 先ほどから言われている中の下というのが気に入らないわけですけど、それは佐藤議員が言っているわけで、私としてはそれなりのことはやっていると思っているわけでございます。なんと言いますか、松崎町は観光で今まで生きてきました。

それで、私は農業を土台とした観光地づくりということを目指して、全町まるごとふる里自然体験学校というのをやっているわけですけども、先ほど申したとおり、今のお客さんというのは、繰り返しになりますけれども、本当にピンポイントで来ますので、そういうことをやって、流動人口を増やしていかなければなかなか松崎の活性化はできないと思っていますので、それに沿ってやっているつもりです。

○3 番（佐藤作行君） 中の下がだいぶ気に入らないようなんですが、そうすると、中の中というくらいで納得していただけますか。

○町長（齋藤文彦君） 納得するとか、しないとかの問題ではなくて、私はそれなりにやっていると思っていますので、それはもう他人の皆さんが点数を付けることだと思っています。

○3 番（佐藤作行君） 確かに、評価というものは一般的にはそうなんだろうと思います。けれども、ここは議場ですし、町政の執行者、執行責任者である町長に自己採点をお願いするということはいいことじゃないかと私は思って質問しているわけなんです。

○町長（齋藤文彦君） なかなか非常に難しいわけですけども、私は今日立候補を表明したわけですけども、やっぱり自分として・・・自分の思ったとおりにできないところがたくさんありますので、これで投げ出すわけにはいかないと、ぜひ自分が辞めるまでにある程度のことを成し遂げて辞めたいと思っていますので、再立候補した次第でございます。これで結論になるでしょうか。

○3 番（佐藤作行君） じゃあ、今までの質問をまとめますと、自分としての評価はしないけれども、あとの 4 年間で上の中くらいまでにはもっていきたいというようなことでよろしいでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 中の下とか中の上とか、いろいろありますけれども、私は自分の信念に沿って一生懸命やっていると、そして、それはあとは町民が判断を下すということだにご理解をお願いしたいと思います。

○3番（佐藤作行君） 口が大変重たいようですので、それはそれでいいと思います。

その次に、先ほども高柳議員の質問に対して、観光にも関係があることなんです、6次産業化なんかも関係あることなんです、桜葉についての・・・、大変松崎町の生産高が年々減ってきているというようなことでいろいろ施策は打っているのか、あるいは今後どういうふうにもっていききたいのか、そこらをちょっとお伺いしたいのですが。

○町長（齋藤文彦君） 松崎町の桜葉というのは、非常にクマリンが多くて、非常に日本全国塩漬ナンバーワンということで、いろいろ騒がれていますけれど、現状を見ますと、やっぱり高齢者の皆さんが生産しているということで、だんだん、だんだん生産量が減っていくというようなことで、非常に憂慮していることでございます。

担当者に若い人が桜葉は稼げるから、若い人がよそから来てやれないかというようなことを言っているわけですが、なかなか進まないのが現状です。

小泉さんともいろいろ桜葉のことでいろいろ話をするわけですが、桜葉としては、先ほど申したとおり、フランスの方でもチーズの中に入ったり、アイスクリームの中に入ったり、いろいろなことでこの桜葉の活用が増えているから、もうちょっと力を入れていけばというようなことがあります、その「日本で最も美しい村」連合の中にも桜葉のことがありますので、これは桜葉というのは、本当にプロジェクトチームを作ってやらなければいけないことだと思うわけですが、なかなか自分の・・・、なかなか進まないのが現状でございます。

まだこれは、いま小泉さんが中心になってやっているようなところがあるわけですが、一企業ですので、町が応援するというのはなかなか難しいところがございます、どういうふうな形をして、桜葉が良くなるかということで、いま中でいろいろ話し合っていることでございます。

○3番（佐藤作行君） それでは、桜葉についてのいろいろ問題点があって、やっぱり根本的には採算が合わないということがあると思うんですよ。やっぱりほかの地区なんかで補助金的な考え方で、1反あたりいくら補助金を出すとか、あるいは組合に補助金を出すとか、いろいろなことをやっている自治体もあるわけなんです、当町の場合は、確かに特産物だと、全国シェアも日本一だということなんです、それに対する手を差し伸べる、あるいはこういう施策を打っていききたい、打っている、そんなところは一向に見られないわけなんです、そこらはどんなふうに考えているのでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） そのようなことを含めて考えていかざるを得ないと思っています。アロエをやった人が、やっぱり買い上げ価格が安いからアロエをやめたとか、また、よもぎも買い上

げ価格が安いからやめたと、いろいろな葉っぱ産業についてのいろいろなことを聞いているわけですけど、松崎の桜葉というのは、それなりのネームバリューもありますし、松崎のなんと言いますか、中心となるものだと思っていますので、そのようなことはもうちょっと内部で研究しながらやっていきたい。内部で話し合いながらやっていきたいなと思っています。

○3番（佐藤作行君） これはもう一つ問題点として、桜葉がいま全国シェア1位、それで松崎町にほかに1位というものはないんですね。

それで、農業後継者対策とも絡めまして、いま後継者に対して年間いくらとかという補助金を出しているわけなんですけど、そういうものよりも桜葉の生産の1反についていくら補助金を出すとか、あるいは生産者1人に対していくら補助金を出したりとかという、そういうような具体的な施策みたいなものは考えておりますか、町長。

○町長（齋藤文彦君） まだそこまでは考えていないです。ただ、桜葉で1反うんぬんとやったら、「じゃあ、おれのところもこういうことをやったらください」というようなこともありまして、非常に難しいことがあると思いますので、そのようなことは桜葉がうまくいくようなことをこれからも考えていきたいなと思っています。

○3番（佐藤作行君） じゃあ、これからそういうことを期待しておきます。

次に移ります。

町長が、町長になる時に掲げた主な政策、「町民との連携、信頼感に基づく施策の構築を目指します」ということなんですけど、これも先ほどの花とロマンのふる里とそんなに内容、言っていることは変わらないと思いますので、具体的なものに移っていきたいと思います。

はじめにですね。地域資源の再評価、活用、大地に立脚したエコスポーツ等低炭素社会が基本の松崎型観光を目指しますとなっています。ここらについてはどうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 松崎は自然に恵まれていまして、目の前に海があるわけですから、シーカヤックマラソン大会とか、オーシャンスイム大会、またダイビング等が盛んに行われて、それなりのことがなっているのではないかなと思っています。

また、松崎は素晴らしい山をもっていますから、今回、第1回トレイルジャーニーを開催したわけですけども、本当に1日で1300人を超える人たちが集まったということでございますので、本当はトレイルジャーニーもほとんど上級の人たちがやっている大会ですので、本当は・・・、実行委員の中に言っているわけですけども、もうちょっとレベルの低い、普通の人ができるような大会ももう一回やったらどうだろうかというようなことを話しているわけです。ただ、

実行委員の方がまだそれだけ成長していないといいますが、まだそれだけの実力が・・・、ちょっと厳しいのかなというのがございまして、いろいろ話し合っているところです。

いろいろ海とかなんとか、いろいろ体験というのは、これは松崎の本当になんと言いますか、皆さん訪れてくれる最大の資源だと思っていますので、そのようなことをこれからも続けてやっていきたいなと思っています。

○3番（佐藤作行君） 私が質問したのは、この地域資源の再評価、これは全部町長の答えたことは観光にみんな引っ張っていったような印象を受けるんですが、このほかにも林業があったり、農業があったり、あるいは水産業があったり、そういうものも含まれるというふうに私は理解したんですが、そこらはどうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） そのとおりだと思います。だけど、やっぱりある程度松崎町は観光地できているわけですから、ある程度の人が来てもらわないと林業・農業・漁業が活性化しないと・・・、私は思っているところでございます。

○3番（佐藤作行君） 確かに私も平成の花とロマンのふる里づくりということで行くと、やっぱり観光を中心でやっていくぞというふうな印象は受けるわけなんですけど、じゃあ、町長が町長になって以来、林業にどのくらいのことをやったのか、あるいは農業に対してどんなことをやったのか、あるいは水産業に対してどのような手を打ったのかというのが全然見えてこないんですが、そこらはどうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 私はそれなりにやってきたと思うわけですが、課長の方から詳しいことは答えます。

○企画観光課長（山本 公君） 地域資源の再評価、活用というようなご質問でございますけれども、石部の棚田もやはり農業資源というものの再評価、活用だと思うわけですね。先ほど町長の方からオーナー制度によって90人のオーナーの方が誕生しているというようなことで、田植え、稲刈りの時には400人からのお客さんがみえて、地域の皆さんと一緒に作業をやっているということ、それらが農業を活用したものの再評価、再活用ということになろうかと思います。

林業の部分でいけば、先ほど皮むき間伐というお話がありましたけれども、そういった形の中で山の手入れをしていくというようなことも一つございますし、水産業じゃあ何があるかとなるとなかなか難しいわけですが、岩地の地曳網の体験なんかも一部水産業を使ったものの再評価。活用じゃないかなと思います。

花とロマンのふる里づくり・・・、よろしいですか。花とロマンのふる里づくりの中で何ができたか、できなかったかというお話があったわけですが、それは基本的な考え方で、自然と

か歴史とか文化とかを大事にしたまちづくりをしようというようなことで行っているわけでございまして、町長におきましては、棚田サミットの開催ですとか、あるいはトレイルランニングの開催ですとか、あるいはオーシャンスイムレースですとか、あるいは今回の「日本で最も美しい村」連合への加盟というようなものもこれまで取り組んでおりますし、農山漁村交流プロジェクトということで、修学旅行の更なる展開を図っていったところでございます。

○3番（佐藤作行君） 先ほど質問した中で、水産業なんかに対しては、なんか手を打っているとか、こうしているとかというのはありますか。

○企画観光課長（山本 公君） 漁業の関係でいきますと、産業の課長からまた後で補足していただければいいかと思えますけれども、岩地の魚礁の整備ですとか、そういうものも当然行って、間伐材を活用した魚礁というんですかね。魚が棲んで、そこに増やすという形のものもやっておりますので、そういう部分。

すべてがすべて出来ているかというのはありますけれども、産業を活性化するようにいろんな施策は行っているところでございます。

○3番（佐藤作行君） わかりました。

あとですね。その次の低炭素社会が基本の松崎型観光ということですが、これは具体的にはどういうことを目指したんでしょうか。町長。

○町長（齋藤文彦君） いま低炭素社会というような・・・、4年前に私は言ったわけですが、本当は二酸化炭素は出さない。出したら吸収するということで、森林をちゃんと整備すればそれなりの吸収力がわかるので、松崎の森林がこれだけCO₂を買ったということで、そのCO₂を企業に買ってもらって、そのお金で観光客の方に来てもらって山の手入れをするというようなことを考えたところでございます。

だけど、なかなか自分の思うとおりにいなくて、堂ヶ島洋ランセンターが中心になってそれをスタートさせたわけですが、道半ばで倒れてしまったわけでございます。

私はいま皮むき間伐というのが今度牛原山で行われたわけですが、そういうのをやって、本格的にCO₂を吸収するのをその観光客の皆さんにやってもらうような形にしていきたいなと思っているところでございます。そうすれば、先ほどの藤井議員の質問にあったとおり、防災に強い森ができるのかなということまで考えているところでございます。

○3番（佐藤作行君） 林業についてのいろいろ話をお伺いしたわけなんです、その次に移らせてもらいます。

一社一山運動、これも先ほど説明がありましたので、よろしいです。

大人の修学旅行ですね。これはあまり実績も上がっていない、これからもどうなるかわからないような話で、一概に大体私はだめだというような感じを受けたんですが、まつぎき荘の再建なんかとも絡めて、大人の修学旅行ですね。これは大々的にやっぱり売っていても面白いんじゃないかと思っているんですが、町長、どうですか。

○町長（齋藤文彦君）　子どもの修学旅行と合せて、本当に大人の修学旅行というのをやりたいなとずっと思っているところでございます。

自分たち団塊の世代の人たちというのは、なかなか非常に凝った人が多くて、非常に掘り進んでいる人が多いわけです。

それで、正月近くになったら、自分の正月の飾りは自分で作って自分で飾ったらどうだろうとか、ぼくはあの岩地のエビ網の親父さんたちが網をきょうのを見ていて、本当に観光客の皆さんに網をきょうのからスタートして、それから一緒に網を作って、伊勢エビ漁に行って、伊勢エビを網でとってそれを食べるということをやったらどうだろうかと、いろいろ自分の頭の中で考えているわけですがけれども、誰がやるのかというのがなかなか出てきませんので、いま停滞しているところです。

一度ある造船所で、自分たちでカヌーを造って魚釣りに行こうというので、一週間掛けてやるような計画がありまして、これは面白いなと思ったわけですがけれども、計画は非常に良かったわけですがけれども、人が集まらなかったというようなことで断念しているところでございます。

全町まるごとふる里自然体験学校というのは、修学旅行も大人の修学旅行も入っていますので、そのようなことをぜひできることだったら、進めていきたいなと思っています。

○3番（佐藤作行君）　わかりました。進めていきたい。こうやっていきたい。そして、ニーズが多様化しているということも確かにあるんでしょうけれども、価値観が多様化して、やっぱりそれに対するニーズも変わってくる。あるいは体験したいもの、やりたいというものも種々万別になっているということを考えますと、やっぱりピンポイントのものをかなり手広くやらないと松崎町の将来は暗いというような感じなんです、町長もそんな考えでよろしいですか。

○町長（齋藤文彦君）　そのとおりでございます。

私は本当に体験メニューがたくさんできて、松崎町に来たい場合、まつぎき荘が観光協会の方に連絡が来て、「私はこういうことがしたいよ」というようなことがあったら、すぐそれに対応できるように・・・簡単に言いますと、ソラスズメダイとか熱帯魚を観察したいからぜひ午前中はそういうことをやりたい。午後からは山へ行って、しいたけの菌打ちをやりたいというよ

うなお客さんの要望がありましたら、すぐそれが出来るような体験メニューというのが出来ればいいわけですが、なかなか、いろいろな人に話をかけているわけですが。

グループでそういうのがあったら、この人がダメだったら、この人が出来るというのがあるわけですが、なかなかそのところがいかないところが非常に残念だなと思っているわけです。

だから、これを本当に完成させて、松崎に来たらいろいろな体験が出来て、2日～3日泊っていかねばとてもやれないよというような形になればいいなと思っているわけですが。

○3番（佐藤作行君） 大変熱っぽい町長の答弁をいただきまして、確かにそういうふうになればいいなと思っている次第です。

最後になりますけれども、町長の選挙公約の一番最後ですね。「財政構造の改善及び施策の協議・決定方法を見直します」というのがあるんですが、そこらについては、どうなのでしょう。

○総務課長（金刺英夫君） ただいまの関係につきましては、私の方からちょっと説明をさせていただきます。

財政構造の改善に向けましては、当町の特徴的な財政構造、自主財源が非常に少ないというような構造があるわけですが、これの強化を目指してきたわけですが、ご承知のとおり長引く不況によりまして税収等が思うように伸びないというふうな状況で、なかなかこれにつきましては、思うようにいかなかったという経過がございます。

ただし、それに代わるものとして、普通交付税が三位一体改革以降、ある程度めどが立つほどの額が入ってくるようになったというようなことで、安定した財政運営は出来ているのかなというような形で推移をしております。

それから、施策の展開につきましては、例えば、公共施設の配置検討委員会などそれぞれその時々課題になったものにつきまして適宜委員会を設けてやるなどして対応しております。

また、従来も行っていたわけですが、庁内の小さな課題につきましても調整会議というようなことで行っていたわけですが、これをできるだけ多く回数を増やすことによって、庁内での情報の共有といいましょうか、そういった対策に向けての対応を図ってきたところでございます。

○3番（佐藤作行君） もう一つですね。「決定方法を見直します」についてはどうでしょうか。

○総務課長（金刺英夫君） ですから、決定方法につきましては、ただいま言った適宜委員会を

設けたり、あるいは内部的な情報を共有することによって、それらを基に決定をしていくという形で、多くの意見集約をした上での決定をしていくということでございます。

○町長（齋藤文彦君） 財政構造というのがあるわけですがけれども3割維持、3割維持って松崎町は言われますけれども、町税が7億円を切っているような、非常に厳しいわけで、この少ない予算をいかにうまく使うかということでいろいろやっているところでございます。

ただいま課長が説明したとおり、そのようにやっているところでございます。

○3番（佐藤作行君） 少し時間が早いようですが、聞きたいことは大体聞きましたので、以上をもって、質問を終了させていただきます。ありがとうございました。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で佐藤作行君の一般質問を終わります。

暫時休憩いたします。

（午後 1時41分）
